

哺育センター自家産第一号牛が待望の第一子を出産！

～JA 全農いばらき繁殖事業 進展～

4月29日、JA全農いばらき哺育センター（常陸大宮市）で自家産第1号牛「ほなみ1号」が待望の第一子を出産しました。

哺育センターでは、2017年度から和牛子牛繁殖事業を開始しており、県内の生産者への安定した和子牛の供給、そして茨城県を代表する銘柄牛「常陸牛」の増頭を目指し取り組んでいます。

今回生まれた和子牛は、同哺育センターで生まれ育った雌牛が産んだ、いわば純粋な哺育センター産和子牛です。自家産牛が出産を迎え、また一つ和牛子牛繁殖事業のサイクルが動き始めました。

同哺育センターの平野東志大専任課長は「ゼロからスタートした自家産和子牛生産は、県内の生産者やJA、県や畜産関係団体と連携を図り着実に歩を進めてきました。今回生まれた和子牛も我々には本当にうれしいニュースであり、このような苦しい情勢のなかでも今後の事業発展の糧にできれば。」と分娩の疲れも和らぎ笑顔で語っています。

同哺育センターでは、2020年4月末までに延べ57頭の和子牛が誕生しており、そのうち繁殖雌牛として保留した牛を除き、17頭をJA全農いばらき家畜市場へ上場販売しています。現在、60頭の繁殖雌牛（育成牛を含む）が飼養管理されており、今後は繁殖牛舎を1棟増設し80頭に規模拡大する計画となっています。



写真：母牛「ほなみ第一号」、和子牛「常陸24号」